

◆ 四国防災八十八話 第四十七話より

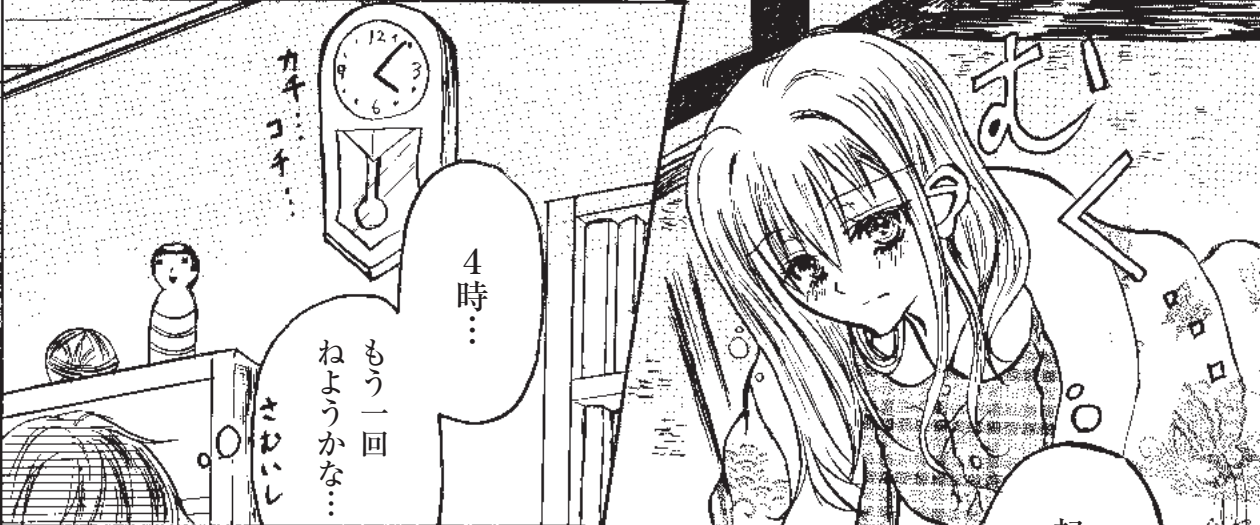
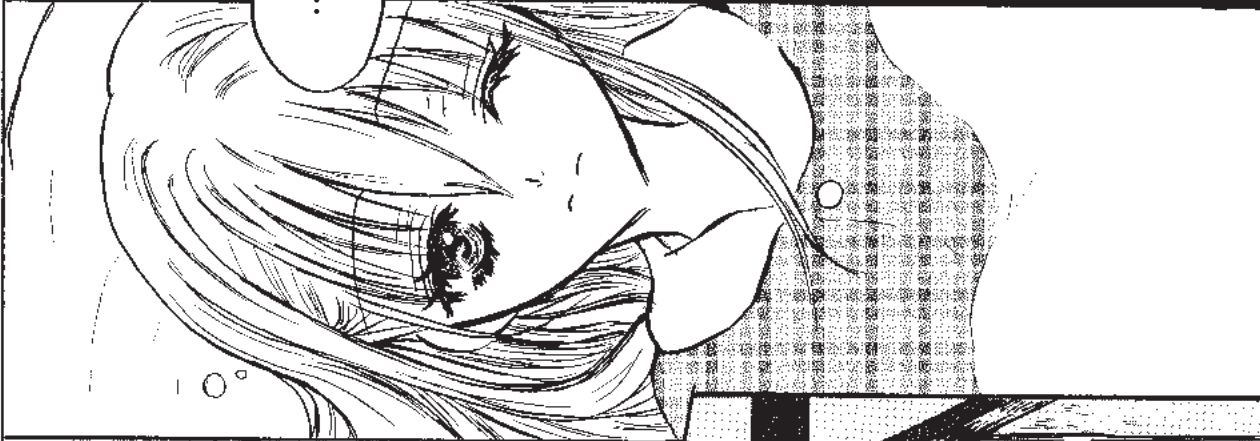
『燃え上がった火の手』

教訓…地震が発生したら火の始末をすること

1946年  
12月21日

午前4時

ん…



カキ  
コキ…



4時…

もう一回  
ねようかな…

さむい

ま

起きちゃった…



カガ…

カタカタ…

え……

ガラッ

昭子 あきこ

起きてるか

地震!?

お兄ちゃん  
地震!?

わからん

ちょっと  
外見てくる

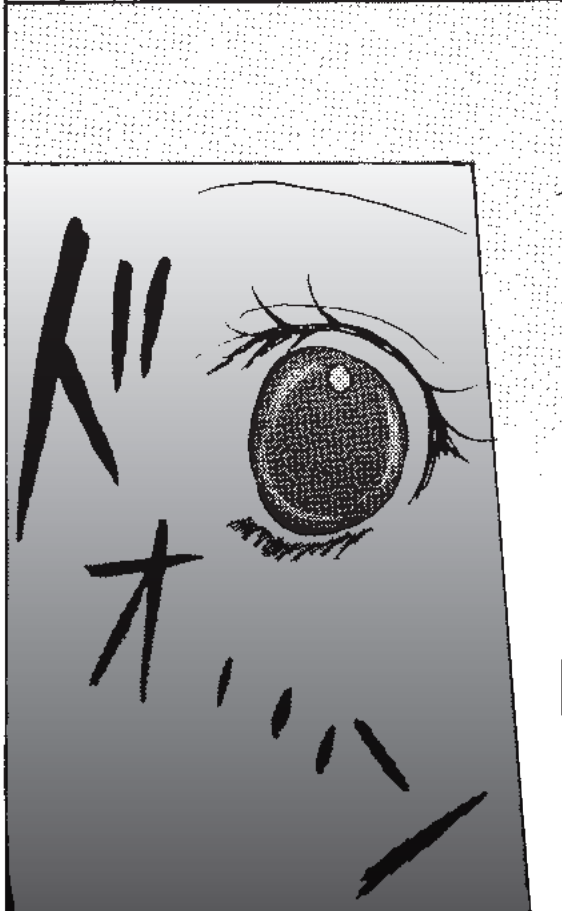
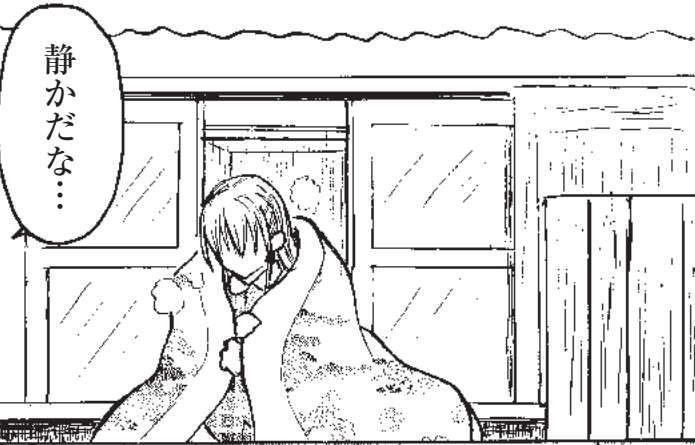
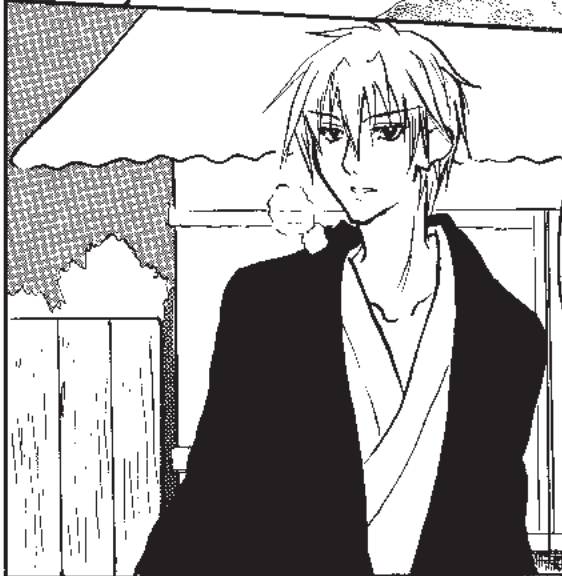
ガラッ

あ……

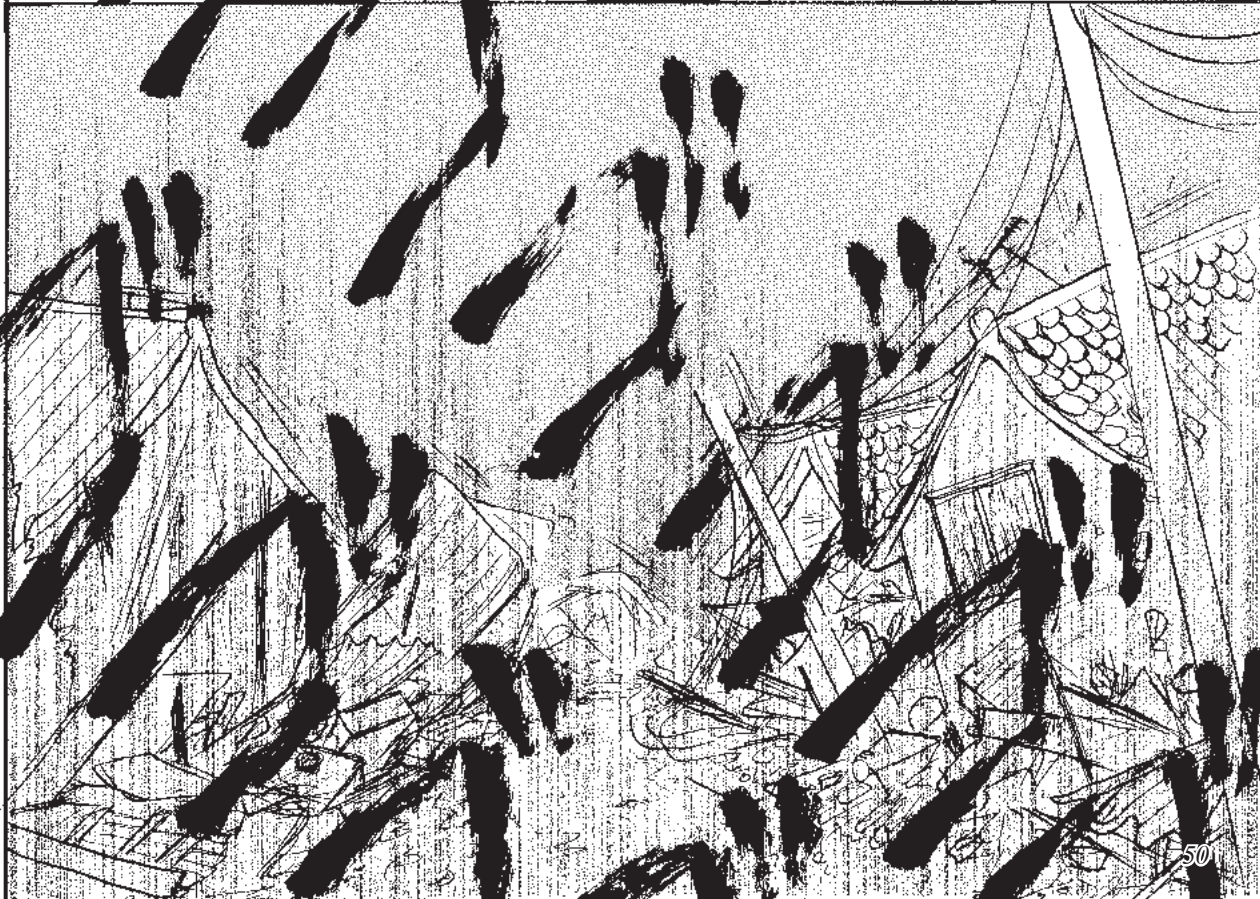
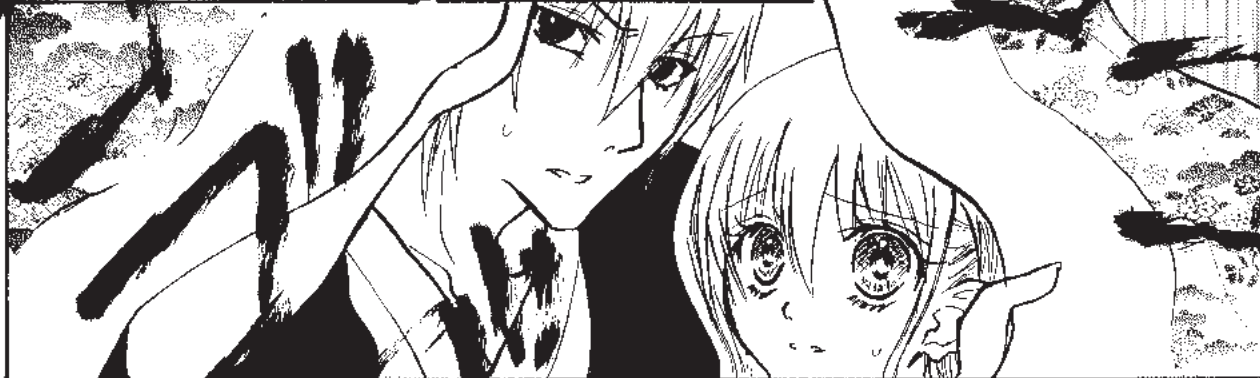
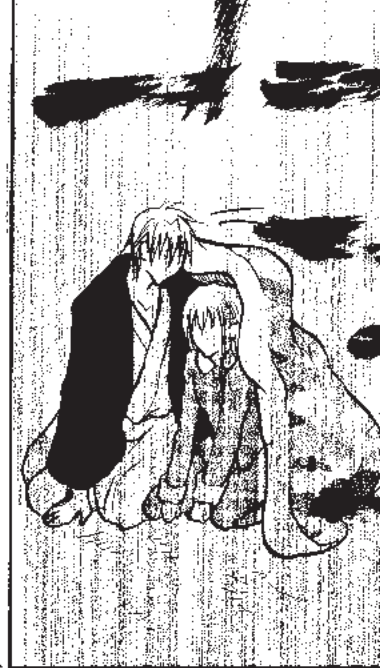
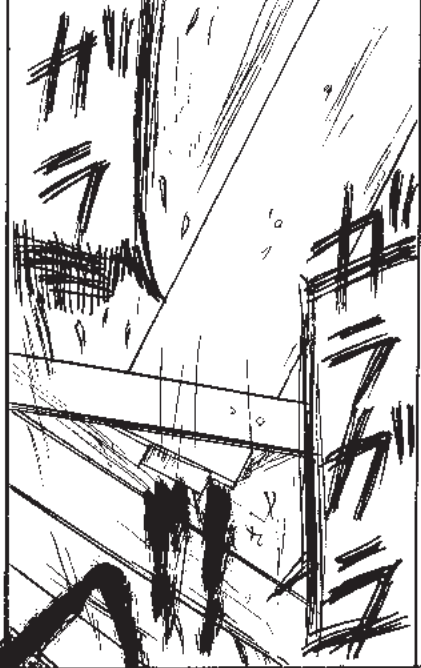
待って  
私も行くっ!!



行儀悪いけど…



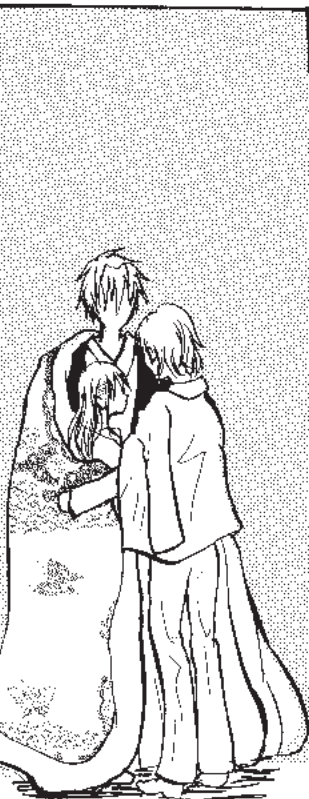






お兄ちゃん……  
…家が…

母さん!!



二人とも!  
大丈夫だった!?

昭子——  
栄吉——

母さんは  
大丈夫だった？

ああ 何とか

近所の人達も  
出てきたね…

オーイ



中村さん！

怖かったねー

まあ 田中の  
おばあちゃん！



お互い  
無事でよかった

これで火事さえ  
起こらなきゃいいが…



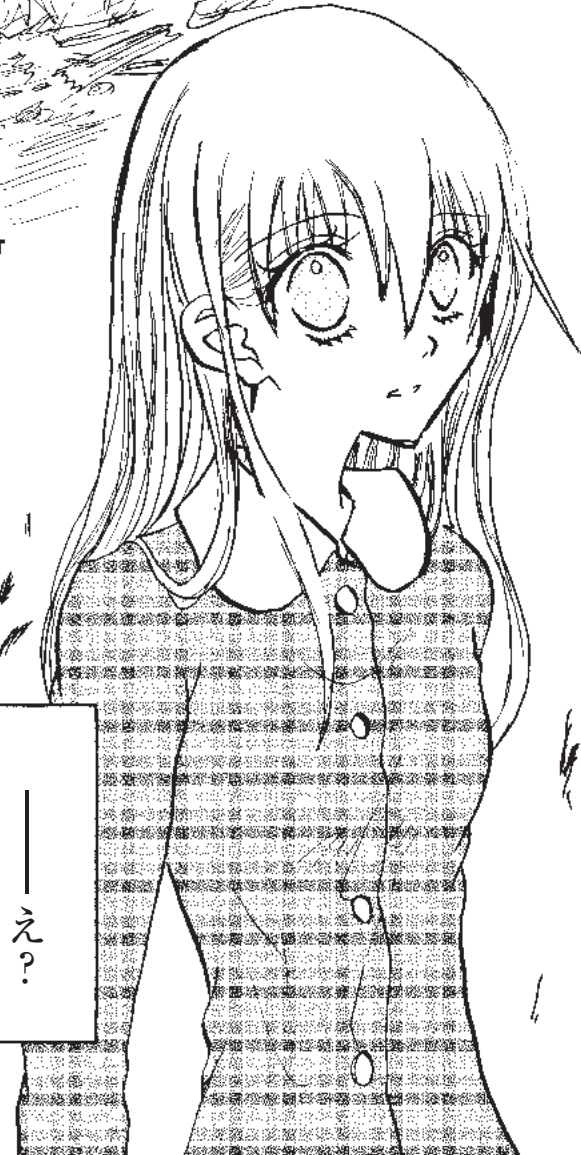




本当に——



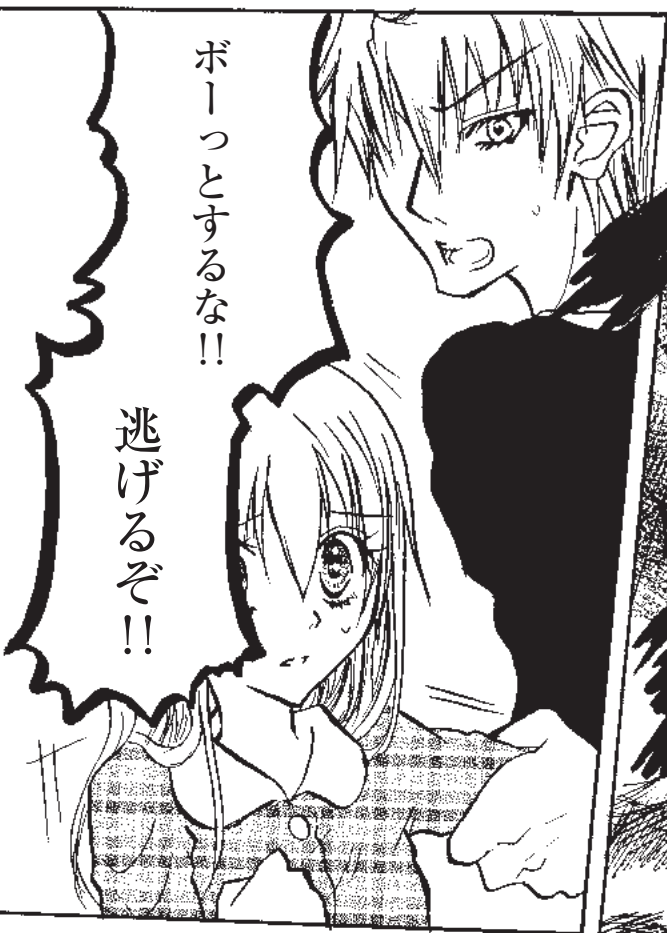
——え？



うわああ

火事だ






ポーっとするな!!

逃げるぞ!!





あのととき  
起こった火事は  
町中を  
焼きつくし

翌朝には  
無残な光景が  
広がっていました

地震が起きた際の  
火の始末の大切さを  
思い知った瞬間でした